

令和7年度 第1回 名西高等学校 学校運営協議会 議事録

1 日 時 令和7年6月12日(木) 午前10時から正午まで

2 場 所 名西高等学校 会議室

3 参加者

○委員(10/11名) 1名欠席

河崎会長、西岡委員、田中委員、小林委員、久米委員、安達委員、喜多委員、
臼井委員、黒川委員、大久保副会長(学校長)、※欠席：手束委員

○事務局(学校関係者7/8名) 1名欠席

竹田教頭、正木教頭、村上教頭、佐藤教務課長、阿部総務課長、横田進路課長、
村山生徒指導課長、※欠席：吉田芸術科長

4 内 容

(1) 自己紹介

(2) 任 命

(3) 役員改選

会長として河崎藤花同窓会長、副会長として大久保学校長が承認された。

(4) 協 議

ア 学校運営方針・名西高校の特色ある取組について

大久保学校長より次の項目について説明、承認された。

① 本校の教育方針について

② スクールミッション・スクールポリシーについて(R6改定)

③ 本年度の重点的取組について

・普通科の魅力化

生徒の主体的な学びを進める個別指導の徹底

「自分で考え、自分の意見を持ち、自分の言葉で表現できる生徒の育成」

授業改善についての教職員研修の実施

令和6年度の進路状況、本年度現在までの実績

地域との連携(名高パトロール隊の活動など)

・芸術科の魅力発信

文化芸術リーディングハイスクールについて

(外部講師による授業、名高フェスティバルなど)

・定時制での社会的自立への取組み

キャリア教育の充実、ICT活用、定通連行事

イ 教育課程の編成について

佐藤教務課長・村上教頭により説明、承認された。

ウ 学校評価総括評価票における評価項目、評価指標等について

竹田教頭・村上教頭により説明、承認された。

エ 令和6年度の受賞歴等について

竹田教頭・村上教頭により説明された。

オ 委員からの提言

- 本日の発表を通じて、日頃から名西高校の先生方にお世話になっていることを改めて実感した。
- 名西高校では「自主性」を大切にしているが、最近の研修会で「校内民主主義」について学び、ドイツでは学校運営協議会に生徒が参加し、意見を反映している例を知った。
- これは、名西高校の普通科の魅力づくりにも通じる点があると感じた。
- 授業へのアンケート実施や、生徒が発表の場を持つことは、生徒の意見を反映する良い取組であると考え。ただし、全体場で発言するのが苦手な生徒もいるため、様々な方法で意見を表現できる仕組みが必要である。
- 大人と子どもが共にルールを作り、それを守りながら、自分自身の価値や役割を認識できる学校づくりを目指したいと思う。
- 時代とともに変化する中で、今後も考え続け、形にし、体験として残していけたら素晴らしいと思う。
- 石井中学校には、高浦中学校や神山中学校を含め、名西高校で力を伸ばしたい生徒もおり、地元校との連携を大切にしていきたいと考えている。
- 徳島市内からも生徒が流れてくることは予想されるが、やはり地元の理解・協力をお願いしたい。
- 少子化が進む中で、今後 10 年、20 年、30 年先を見据えたときに、普通科が現在の形で存続できるかは不透明である。
- 県としても普通科の数を減らす方向性を持っているとのことで、名西高校として普通科のあり方や、普通科と芸術科の両立などの新たなビジョンがあれば、ぜひ教えてほしい。
- そうした情報をもとに、中学校としても進路指導にあたっていきたい。
- 丁寧なご説明に感謝している。
- 私も町内に住んでおり、夕方に名西高校の生徒が自転車で帰宅する姿をよく見かける。
- 先日、その生徒がヘルメットを着用しており、安全意識の高まりを感じた。
- 高浦中学校でも「命の大切さを学ぶ教室」などを通じて交通安全教育を実施し、ヘルメットの重要性も指導している。
- 説明の中でも「安全教育の徹底」が重点目標として挙げられていたが、可能であれば、高校生にもヘルメット着用の義務化を進め、安全な通学環境づくりをお願いしたい。
- 中学生は登下校時にヘルメットをかぶっているが、普段は着用しない生徒もいる。
- 高校生が常時ヘルメットを着用することで、中学生にも良い影響を与えている。
- 地域全体で安全意識を高められるよう、取組を検討してほしい。
- 将来的に学区制が廃止されるような場合でも、地元の中学校とのつながりを大切にしてほしい。今後ともご配慮・ご協力をお願いしたい。
- Q. 卒業生の進路先の比率はどのような割合か。
 - A. 4 年制大学：5 割、短大：1 割、専門学校：3 割、就職：1 割
- Q. 今年のオープンスクールで参加者が倍増したのは何か理由があるのか。
 - A. 内容や広報については昨年同様であったので、開催直前に放映された四国放送「ゴジカル」での生中継の反響が大きかったように思う。

Q.「金融教育」は実施しているか。

A. 昨年は、家庭科の授業の中で、銀行の方に来ていただいて講演を実施した。

- 学区制の廃止による影響が危惧されているが、名西高校が芸術科はもちろん、普通科も大切にしながら、地元の高校として選ばれる学校になってもらいたい。
- 選ばれる学校になるためには、中学生やその保護者にも知っていただく必要があるため、早め（6月）にオープンスクールを実施するのは素晴らしい取組であると思う。
- 企業にとって「お客さん」が重要であるように、学校にとっては「生徒」が大切な存在である。また、企業がサービスを提供するように、学校は教育を提供している。そのため、生徒や保護者にとって「魅力的だ」と感じてもらえる学校であることが、これからますます重要になると思う。
- 企業としても社員に、金融セミナーを行ったりしているが、高校生にも早い段階で金融教育を行い、金融リテラシーを持つことが、自立することにもつながるのではないか。
- いじめの件数が少ないというのは素晴らしいことである。ただし、もし問題が起きた場合には、すべてを先生が解決するのではなく、生徒同士で向き合い、話し合っ解決する経験も大切だと思う。そうした経験が、生徒の人格形成にもつながっていくのではないか。
- これからも地域に根ざした魅力ある学校として、名西高校を応援していきたい。
- 今はA I の時代となり、子どもたちが将来社会に出る頃には、どのような時代、社会になっているのか予測がつかないような状況であるが、そうした中で、生徒一人ひとりが「自分の強み」や「得意なこと」「好き嫌い」などをしっかりと考え、理解できるような学校であってほしいという願いがある。
- 部活動やコンクール等で結果を出すことも大切であるが、たとえ賞が取れなくても、それまでの努力や過程もしっかりと評価し、認めてあげられるようにしてもらいたい。
- 学校の中だけでは難しい時には、こども食堂などの外部とのつながりなども活かしてもらえたらと思う。
- 現在、インターネットを活用してどこでも学べる時代になっている。だからこそ、例えば東京の生徒が1週間だけ名西高校で学ぶといった体験型の受け入れや、海外の高校生との交流をもっと柔軟に行えるようにしてはどうか。そうした体験を通じて学んだことを他の生徒にも共有することで、学びを広げていく取組を検討してほしい。
- 芸術科を中心とした地域との交流、地域での様々な活躍（高川原小学校のプールサイドのウォールアート等）に感謝している。小学生との交流を通じてお互いに身につくものもあり、地域に開かれた学校として、今後も継続してもらいたい。
- メディアの活用やホームページの更新など、名西高校の魅力発信の方法も工夫してもらいたい。石井町としても地元の高校なので、しっかりと連携しつつ、活性化・魅力化に協力していきたい。
- 芸術科はもちろん、陸上部の活躍が素晴らしい。
- 大学で面接の練習をしているが、高校時代に「今まで頑張ってきたこと」が書けない生徒も多い。部活動や生徒会、ボランティアなど何かに取り組んだ経験があると、それが将来に活きる。学力も大切だが、それ以上に「何をやってきたか」「そこで何を得たか」が大学進学や就職において重視される。

- 特に企業は実績そのものよりも、そこから得たコミュニケーション能力・協調性・責任感・積極性などの力を見ている。普通科の生徒にも、こうした力を身につけさせる取り組みを行えば、学校の魅力づくりにもつながる。
- 初めての参加で、名西高校の話を懐かしく聞いた。
- 自身も約 40 年前に芸術科を卒業し、当時は普通科の方が人気だったが、今は芸術科が人気と聞き嬉しく思った。
- 芸術科で学んだ基礎が、現在のデザインの仕事（チラシやホームページ制作）に活かされており、誇りに思っている。
- 表現は大人でもできるが、高校時代に培った基礎力が自由な表現の幅を広げてくれたと感じている。
- 気になったこととして、自分がいた時代と授業の内容が大きくは変わっていない(専攻が油絵・日本画・デザイン・彫刻等) こと。またデッサンや基本造形など、芸術の基礎を学んだ。
- 社会に出て仕事をする中で、時代の変化とともに社会のニーズも大きく変わってきていると感じている。
- 現代では I T や A I、地域との関係性など多様な分野への対応が求められている。
- 純粋なアーティストとして生計を立てるのは一部の人に限られ、現実的にはデザインやイラスト制作など、実用的な分野の仕事が多い。
- 高校生は外部の人と関わる機会が少ないため、社会で働く人の話を聞くなど、実社会との接点があると良い。
- 例えば、現在デザインの仕事をしている自分のような人の話を聞くことで、今の時代に求められているデザインや表現について理解を深めることができる。
- 名西高校には、徳島の芸術系教育をリードする存在として、もっと活発に活動し、P R を強化してほしい。
- 将来的には「日本一の芸術科を持つ学校」になってほしいという期待がある。
- 音楽コースの「わくわくコンサート」について、大変興味を持った。ぜひ行ってみたい。またチラシについては、見る人にとって、演奏する曲名を入れるなどの工夫をすれば、もっとわかりやすく親しみやすいと思う。
- これからの学校には「選択肢があること」が大事だと感じる。普通科だけでなく、芸術科があり、その中にもさまざまなコースがあるような学校は、子どもたちにとって魅力的である。名西高校も、地域に根ざしながら、そんな魅力ある学校を目指してほしいと思う。
- 地域の人たちが学校に関心を持ち、情報を知ることで、学校とのつながりが強くなり、その意識が行動につながり、応援する力になると思う。
- 私も同窓会の一員として、これからも学校と協力して、県や県議会などに向けて学校の魅力をアピールしていきたいと思っている。